

かみのやま 歴史・文化財さんぽ

第25号 (令和元年12月)

あゆむ 「“はだかもちつき”だって？」
 ふみお 「そうなんだけど、正しくは
 “高松観音御年越し餅搗き行事”と
 言われているんだ。」
 ミドリ 「高松観音様はここにあるのは知って
 いたし、裸餅つきというのもニュースで
 見たりしていたわ。でも、年越し、つまり
 次の新しい年を迎えるための餅つきだった
 のね。」

あゆむ 「お、なんだかもう祭りのふんいきだ！」
 ミドリ 「もう準備が始まっている。女性の方々
 がもち米を蒸したりしているのね。」
 文じい 「事務室がある。ここで、餅つきの歴史を教
 えてもらうことができそうじゃ。さあ、入ら
 せてもらおう。」

ミドリ 「扇がかけてあるわ。歌の文句みたいね。」
 ふみお 「“おらが村にも名物ござる、漉いて納める
 柔紙” だって。」
 ミドリ 「説明が書いてあるものもある。読んでみる
 わ。」



ミドリ 「みな様、この
 餅つきは、今よ
 り350年前より
 当地高松観音に
 伝わる珍しい民
 俗行事であります。その昔、高松の人々は、
 田畑を耕すと共に、観音様からさずかった
 柔紙を漉き、商売は繁盛し、村は栄えて来
 ました。” このあと、続けて読んで。」

ふみお 「うん。えーと、“氏子たちは、年に一度旧
 12月17日に感謝の意をこめて餅米を出し
 合い、別当光明院の館に集まり、朝早くから、
 大勢の若者たちが肌かになって勇壮盛大
 に餅を搗き上げ、観音様に供え、五穀豊穰
 商売繁盛を祈願したのが始まりであり、今

高松観音 御年越し

もちつきぎょうじ

餅搗き行事

に受け継がれています。餅つきは、“こねり”
 から始まり、“夫婦つき”、“合づき”、“仕上げ”、
 “つき上げ”と、念を入れる珍しいものであ
 ります”。と書いてある。」

ミドリ 「“柔紙”というのは、どういうものかしら？」
 文じい 「高松地区で、江戸時代からつくられてきた
 “手漉き和紙”のことじゃ。」
 あゆむ 「手漉き和紙ってというのは？」
 文じい 「楮などの紙の原料を水に溶かして、簀子の
 上にすくい上げ、薄く平らにしてつくる紙、
 つまり手で漉く紙のことじゃ。日本で昔か
 ら行われてきた手づくりの日本の紙、つま
 り、和紙と言ってきた。」

ふみお 「柔らかいけど、とても丈夫な紙だよな。」
 ミドリ 「私、和紙は好きだわ。あの感触！」
 文じい 「ふむ、見た感じも触った感じも実によい。
 高松の和紙は、寛永年間(1624~1643)に、
 大和国吉野郡の松本長兵衛安清という人
 が伝えたと言われている。」

ミドリ 「それが、地区に広まったのね？」
 文じい 「麻の布にさらす“麻布紙”が貴重で、さらに、
 “大奉紙”はお城に納められる御料紙じゃ。」

ふみお 「冬の高松川で、厳しい仕事になると聞いて
 いたけど、今は、どうなっているの？」
 文じい 「西洋紙が入ってきてから、次第にやめてい
 く家が多くなってきた。土屋一郎さんが少
 し前までがんばっておられて、卒業証書も
 作ってくださっておったが……。」

あゆむ「さあ、始まるぞ。真ん中に大きなうすがおかれてある。」

ふみお「お祈りが行われ。うすの周りにはお酒だ。」

ミドリ「ふかしたもち米が運ばれてきた。」

あゆむ「男の人たちが、長い棒を持って、これでつくんだ。」



ふみお「棒は、千本杵という。まず、初めはこねるんだよね。」

文じい「餅つきは、“こねり”が大事だ。」

あゆむ「人がおおぜい集まってきたぞ。」

ミドリ「すごい迫力ね。」

ふみお「お隣りが調子よく、力強く盛り上げているね。あの扇に書いてあった歌詞も入っていたみたいだ。」

ミドリ「あら、今度は、周りの人たちも参加してついている。すごいにぎわいだわ。」

あゆむ「お、男の人たちがはっぴを脱いだぞ。なるほど、これが“はだか餅つき”か！」

ミドリ「白い前掛けに、何か書いてある。」

文じい「“念彼観音力”、
“衆生誓願力”、
“遍照金剛力”。
観音経の一節
じゃな。」

あゆむ「なんか、かっこういいなあ。」

文じい「さあ、仕上げが終わると、いよいよつき上げじゃ。」

ミドリ「うわあ、すごい！みんなで持ち上げた！」

あゆむ「男の人たちの筋肉が盛り上がっている！」



あゆむ「“よしよ”と、餅がうすに落とされた。すごい拍手だ！」

ふみお「ふう。汗が光っている。力と気持ちがかもった餅だ。このあと、この餅はお供えされるんだね。」



文じい「ふむ。餅は丸型にして太陽を表す“日天”と、三日月型にして月を表す“月天”。さらに、御本尊へと奉納される。そして、松本長兵衛氏にも、大奉紙を添えて届けられたという。」



ミドリ「観音様にお参りしたいわ。」

あゆむ「よし、行こう。」

ミドリ「鳥居が有名で、仁王様や大わらじもあるわ。観音堂にも大わらじ。でも、観音様なのに神社の鳥居ってどういうこと？」

文じい「ふむ。神仏混交といって、日本では、神様と仏様と一緒に信仰してきた歴史がある。」

あゆむ「観音様と、和紙と、餅つきが繋がっていたんだね。」

ミドリ「紙漉きはやらなくなったけど、餅つきは立派に受け継がれている。」

文じい「よくお参りをし、このあとお餅をいただいて、この行事で、地区の盛り上がりや人々のつながりを強めていっしょの思いをかみしめながらおいとまするとしよう。」

あゆむ「うわあ、広場は、餅をいただく人でいっぱい！」